

白鳳時代の瓦に線刻された文字

南 溝手の大文字遺跡で、文字が刻まれた瓦(文字瓦)が5月下旬、2点出土しました。文字瓦の出土は市内で初。市道の改良工事に伴って行った発掘調査によるものです。

この瓦は白鳳時代のもので、県内で最古のもので。文字はいずれも平瓦の凸面に、窯で焼く前に刻まれていました。

右下の写真①の瓦から読める「評」は、地方の行政組織や行政区画を示す言葉であることから、この瓦が701年以前のものだと分かりました。瓦が割れ、現代にない漢字(異体字)も刻まれており、地名や地元の有力量の名前を刻んでいると考えられます。

写真②の瓦からは、「而奉」の文字が読めることから、神仏や上位者への献上か、祭祀に使われたと考えられるはずらしいものです。

出土場所は、栢寺廃寺(南溝手)の寺域とされる東の端です。幅2.9m、深さ0.5mの穴から、破損した平瓦や



県内で最古の文字瓦、市内でも初の出土。栢寺廃寺の屋根にふかれた瓦だ。



写真① 瓦の右端に、右のような文字が見える

丸瓦が大量に出土。文字瓦はこのなかから発見されました。同寺は、白鳳時代に賀夜氏が創建した古代寺院と考えられており、これらの瓦は、差し替えや同寺が途絶えた後に廃棄したものと考えられます。

この文字瓦は、古代の寺の造営や、近隣の有力氏族との技術協力などを研究するうえで貴重な資料です。

問い合わせ 文化課文化財係(☎8363)

美袋八幡神社のラカンマキ市の指定文化財に

6月23日、美袋八幡神社の境内にあるラカンマキを、市の指定重要文化財に指定しました。

このラカンマキは、本殿の北にあり、推定樹齢280年、目通り3m、根元の周囲4.5m、高さ19mと県下1位の大きさで、全国でも屈指の大樹。国内でも寺社の境内などにわずかに残るのみで貴重なものです。

ラカンマキを知る地元の人たちは、市の指定文化財になったことをたいへん喜んでいました。



美袋八幡神社のラカンマキ



写真② 瓦の左端に、左のような文字が見える

大学の知恵を借りて、地域の発展につなげたい

片岡市長

市長 玄関脇の県立大連携交流コーナーを積極的に活用し、市民に県大をPRしていきたいです。それと、職員のスキルアップに力を貸していただきたいのです。

学長 外部から講師を呼んでの講演会や公開講座があるので活用してください。

市長 中原や東阿曾、長良地区に企業が進出します。県大の学生さんに、総社市内で働いてほしいと思っているのです。総社市も新規採用をしますよ。

学長 職場ができれば変わってくるでしょう。総社を気に入ってほしいですね。

市長 共同研究のことですが、包括協定を結んで以来、常盤公園のデザイン、県立博物館を誘致する会のPRグッズのデザインなどだんだん形になり、そこに就職できれば、非常に望ましいですね。

学長 今年、市内にブラジル人学校ができました。市民も学生さんも、外国人と触れ合うことはいいことだと思います。市と本学がどういう方向で協

っています。

学長 今年度は、保健福祉学部が関係している共同研究が多いですね。地域貢献も視野に入れ、小地域ケア会議の評価と今後のあり方や、地元農産物をつかったレシピ作成などの研究ですね。それと、学術協定を結んでいる韓国のウソン大学から短期語学留学生が来日します。

市長 鬼ノ城はまさしく韓国と深い関係があります。

学長 この事業は、今後も定期的に行うことになると思うので、毎年韓国の学生が総社を訪問することになります。

市長 さて、今後ですが、総社市と本学がどういう方向で協

働するかということ、考えていかなければと思います。で、発想とアイデアで市民サービスを行うのが市の役割。そのためにも知恵を貸していただき、ともに地域の発展につなげていきたいと思っています。この連携を根気強く継続させていくことが大切だと考えています。

働するかということ、考えていかなければと思います。で、発想とアイデアで市民サービスを行うのが市の役割。そのためにも知恵を貸していただき、ともに地域の発展につなげていきたいと思っています。この連携を根気強く継続させていくことが大切だと考えています。

市長 財政が厳しい時代です。そのために、計画はいろいろ出てくると思いますが、後は実行あるのみ。実行するとなると結果がでてくるので、その見極めが大事です。お互いプラスになるように、持続可能な関係を続けていきたいと思います。

学長 今日は、ほっとな話ができてうれしく思います。今後とも仲良くやってまいりましょう。

市長 今日は、ほっとな話ができてうれしく思います。今後とも仲良くやってまいりましょう。

働するかということ、考えていかなければと思います。で、発想とアイデアで市民サービスを行うのが市の役割。そのために、計画はいろいろ出てくると思いますが、後は実行あるのみ。実行するとなると結果がでてくるので、その見極めが大事です。お互いプラスになるように、持続可能な関係を続けていきたいと思います。

学長と市長のほっと会談

岡山県立大学の三宮学長と市長の定期会談の第1回目が6月26日、市長室で行われました。これは、同大と包括協定を締結したことを機に、より一層連携を深めようと始まったもの。会談の名前も、熱くて、和めるような場になるよう「ほっと会談」となりました。ここでは、その一部を紹介します。



お互いにプラスとなることを実現させたい

三宮信夫 岡山県立大学学長